和歌山大学教育学部

2023 年度　共同研究事業

「和歌山大学を中心とした ESD for SDGs コンソーシアム推進」

研究代表：教育学部　岡崎　裕　和歌山大学教育学部附属中学校　山口康平
和歌山大学教育学部附属小学校　中山和幸　和歌山県立田辺高等学校　小竹博允

本研究は和歌山大学教育学部と同附属小・中学校、及び和歌山県と和歌山県周辺域に所在する地域の諸学校との連携のもとに、『２１世紀の社会を生きるうえで必要となる資質・能力』（２１世紀型能力）の育成を目指し、SDGs 推進を目指す共同研究のための枠組み「和歌山 ESD for SDGs コンソーシアム」を組織し、ここを起点として研究の成果を地域全体で共有することにより、教育の質的向上を図ろうとするものである。2020 年度の立ち上げから既に 4 年目となる本プログラムは、新型コロナウイルス（covid19）の拡大と時期的にほぼ並行して進んできたものであり、感染症法上の区分が「５類」に移行した 2023 年 5 月を機として、ようやく本格的な始動を迎えたとも言える。ただ、そうした困難な環境下においても優れた学校実践と、それらを通した貴重な教育実践学上の知見を提供し続けられた先生方には深く敬意を表したい。

さて、そうした状況において、今年度より新たに共同研究の輪に加わっていただいた和歌山県立田辺高等学校における実践を含め、今年度は三つの報告を示したい。まずその田辺高校においては、新学習指導要領への移行に伴って完全実施となった新カリキュラム「総合的な探求の時間」を通した SDGs 学習の取り組みについて報告をいただいた。地元行政（田辺市）、および地元の先進的な企業（（株）南紀白浜エアポート）等と連携し、地域の持続的発展に向けた学習カリキュラムを展開している。また、ユネスコ共同学校（ユネスコスクール）としての強みを活かしつつ、有志生徒による課外活動（SEEKER）によって取り組まれた多様な活動について報告があった。

続いて、これまでにも数多くの SDGs に向けた実践に取り組まれている和歌山大学教育学部附属中学校からは、今年度は特に総合的な学習の時間において「地域防災」をテーマとして進められたプロジェクト方探求学習の実践について報告があった。全 37 時間をかけて取り組まれた大規模なプロジェクトで、地元行政の担当部局や地域住民の方々、さらに地域における医療機関等とも連携を進め、フィールドワーク等も交えながら、地域社会の防災に関する機能強化を教育の面から担保する意欲的な取り組みである。

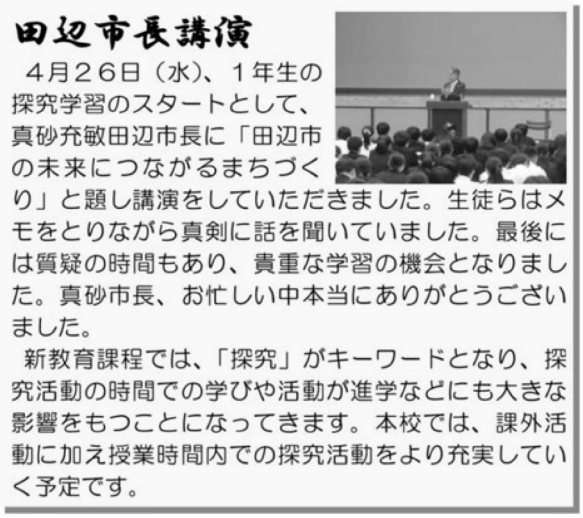
さらに教育学部附属小学校からは、継続的に取り組まれてきた総合的な学習の時間における SDGs に向けた学習活動の成果として、これまで取り扱った学習課題に関してさらに探究を深めてゆくプロジェクト学習に関する活動の報告がなされた。クラス（５・６学年複式）全員が、これまで扱ってきた複数のトピックの内から自由にテーマを選び、それぞれにチームを組んで探究活動を行なっている。結果的に参加児童数が 1 人のチームもあるが、それはそれで児童の自由意志のなかで取り組みを進めている。これまでの経緯を鑑みれば、SDGs に向けた取り組みはクラスの（総合的な学習の時間の）活動として、これまでも、またこれからも継続して続くものであり、今回の報告はその一過程として捉えることができる。

以下、それぞれの学校からご提出いただいた報告を提示しつつ、今後の共同研究の方向性について論議してゆきたい。

１　和歌山県立田辺高等学校の ESD の取り組み　（小竹博允）

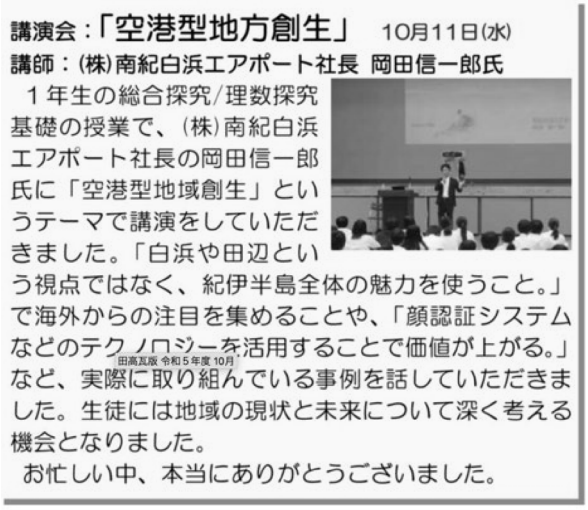
①　総合的な探究の時間

1 学年では地域をテーマとした探究に取り組んだ。田辺市長や㈱南紀白浜エアポート社長の講演等を通じて、地元での SDG s の実践例や地域活性化の取り組みを学んだ。また、「ネスレ　サステナビリティプログラム」や㈱マイナビの教材を活用して探究のスキル学習を重ねたうえで、「SDGs スタディーツアープラン」（関係人口の創出による地元地域の活性化を目的としたツアープラン）を作成した。2 学年では「なぜ？からつなぐ現代社会の諸課題」をテーマに生徒の興味・関心ベースの探究活動を行い、3 年生では進路探究に取り組んだ。


田辺市長講演

４月２６日（水）、１年生の探究学習のスタートとして、真砂充敏田辺市長に「田辺市の未来につながるまちづくり」と題し講演をしていただきました。生徒らはメモをとりながら真剣に話を聞いていました。最後には質疑の時間もあり、貴重な学習の機会となりました。真砂市長、お忙しい中本当にありがとうございました。

新教育課程では、「探究」がキーワードとなり、探究活動の時間での学びや活動が進学などにも大きな影響をもつことになってきます。本校では、課外活動に加え授業時間内での探究活動をより充実していく予定です。


講演会：「空港型地方創生」　10月11日(水)

講師：(株)南紀白浜エアポート社長　岡田信一郎氏

１年生の総合探究/理数探究基礎の授業で、(株)南紀白浜エアポート社長の岡田信一郎氏に「空港型地域創生」というテーマで講演をしていただきました。「白浜や田辺という視点ではなく、紀伊半島全体の魅力を使うこと。」で海外からの注目を集めることや、「顔認証システムなどのテクノロジーを活用することで価値が上がる。」など、実際に取り組んでいる事例を話していただきました。生徒には地域の現状と未来について深く考える機会となりました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

田高瓦版 令和５年度 10月

②　課外活動

生徒有志の委員会である SEEKER（シーカー）を組織し、「国際理解」と「持続可能な地域づくり」をテーマに、ユネスコスクールとしての活動に取り組んだ。国際交流では、中南米和歌山県人会との交流、大阪観光大学に所属する留学生との交流、民間企業・大学と連携した OECD 国際共創プロジェクト、中国四川省の学校とのオンライン交流（2024 年 3 月予定）などを実施した。地域に根差した活動としては、地元農家と連携した梅の商品開発、田辺市内の世界遺産である熊野古道長尾坂の保全活動（道普請）、高野山でのフィールドワーク、盛岡中央高校（岩手県）との世界遺産学習オンライン交流会（2024 年 2 月予定）などを行った。その他、福島県への探究型研修旅行を企画し、現地で生徒がインタビュー調査やフィールドワークを行い、福島で学んだ教訓や復興事業などを地元の方々に発信するために、探究成果をポスターにまとめて文化祭で展示をした。

２　和歌山大学教育学部附属中学校の実践（山口康平）

本年度、２年生前半の総合的な学習の時間において「地域防災」をテーマにプロジェクト型探究学習を行った。（担当は林剛教諭と鷲山峻大教諭）

<u>目標</u>

・災害前の防災・減災、災害時における安全確保、災害後の対応に関する知識を身につける。

・自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断・行動できる実践的な力を高める。
・本校周辺地域の防災に関する課題を理解し、課題解決に向けて自分たちが学んだことを地域に積極的に還元し、貢献しようとする態度を養う。

取り組みの概要（全 37 時間扱い）

1~2　ガイダンス＋防災調べ学習（防災レポート）→学年フロアに掲示
3　防災プロジェクトの主題決定＋プロジェクト希望調査
　４つのプロジェクト　①減災　②被災時　③被災後　④防災運動会
4　校外学習計画・準備確認
5~7　6 月 23 日（金）　校外学習「阪神神淡路大震災記念 人と未来防災センター」
8　6 月 27 日（火）　講義「災害医療について」中大輔医師（日本赤十字社和歌山医療センター災害医療救援センター・センター長）
9~10　6 月 29 日（木）　吹上地区防災の現状と課題についてのヒアリング①、②
　講義と質疑応答　①和歌山市危機管理局地域安全課　②和歌山市中消防署
11~12　プロジェクト立案と計画
課外　7 月 18 日（火）　吹上地区防災の現状と課題についてのヒアリング③
　吹上自治区の自治会長さんたちとの懇談（プロジェクトリーダーのみ）
13~24　プロジェクト探究
25~26　10 月 26 日（木）プロジェクト中間報告会
27~30　プロジェクト修正　31~32「防災を学ぼう祭＆防災運動会」の準備
33~36　「防災を学ぼう祭」　※「防災運動会」（2 時間）は体育扱いで
37　事後まとめ　自己評価　関係諸機関へのお礼

中間発表会

お世話になった専門家から助言をもらう　→　プレゼンを修正して本番に臨んだ。

防災運動会

防災を学ぼう祭

保護者や吹上地区の住民の皆さんに参加してもらい、探究成果を発表した。

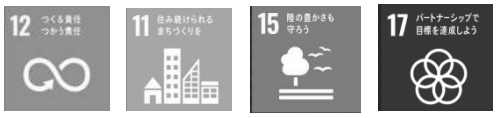
３　和歌山大学教育学部附属小学校の実践（中山和幸）

今年度は，総合的な学習の時間において、SDGs を大きなテーマとし、普段の生活の中やこれまでの学習経験の中で子どもの興味・関心や課題意識をもっているものを学習材として取り上げた。そのような学習材をもとにして、立ち上がったプロジェクトチームは以下の通りである。

プロジェクト	5年	6年
①「アルミ缶のリサイクル活動」	1人	0人
②「アクアポニックス」	1人	0人
③「和歌山城観光客減少問題の対策としての和歌山ラーメンづくり」	2人	5人
④「和歌山城観光客減少問題の対策としての和菓子づくり」	3人	1人
⑤「和歌山市の課題の1つである猫保護活動」	1人	2人

それぞれのチームの活動の概要をまとめると以下の通りである。

①猫保護活動チーム（5年生：1人　6年生：2人）



猫保護チームは、動物愛護センター（和歌山県）に収容された猫を譲り受け、一時預かりボランティアをすることで、猫を人慣れできるようにし、その後、譲渡ボランティア（猫の飼い主を探す活動）をすることで、不幸な猫を少しでも減らしたいと願い、活動したチームである。

②和歌山ラーメンチーム（5年生：2人　6年生：5人）

和歌山ラーメンチームは、和歌山市のシンボルの1つである和歌山城に観光客が集まるようにするための手段としての和歌山ラーメン作りに取り組んだチームである。

③和菓子チーム（5年生：3人　6年生1人）

和菓子チームは、和歌山市のシンボルの１つである和歌山城に観光客が集まるようにするための手段としての和菓子作りに取り組んだチームである。もう一つの目的として、アレルギー物質の少ない、多くの人が食べれるお菓子作りもある。

④アクアポニックスチーム（5 年生：1 人）

アクアポニックスに取り組む子どもは、水耕栽培と淡水魚の飼育の両立に取り組んだ。

⑤リサイクルチーム（５年生：１人）

リサイクル活動に取り組む子どもは、アルミ缶を回収し、回収業者に搬入することで、お金を稼ぎ、稼いだお金を寄付する活動に取り組んだ。

まとめ

和歌山大学では第３期中期目標において「附属学校３校が連携し、『多様な特性のある児童・生徒が共に学びながら』（インクルーシブ教育）、『２１世紀の社会を生きるうえで必要となる資質・能力』（２１世紀型能力）を高めるための教育について学部・大学院との共同研究を行い、その成果を、和歌山圏域

における地域特性を活かした『持続可能な社会の担い手育成』（ESD）のための先進的教育モデルとして、地域の学校に提供する。」と宣明している。ESD における E=Education（教育）と、SDGs における G=Goals（目標）との関係性は、「方法」と「目的」の関係にある。私たちが未来に向けて持続的に在り「続ける」ためには、そうした「目標（Goals）」を見定めたうえで、個人としての学びに留まらず、民主主義社会における「市民」としての「学び」を探究する必要がある。いままさに「個」人としての学びのメリトクラシーと共に、「公」教育の意義が問われている。SDGs に向かう教育（ESD）とその共同体（コンソーシアム）は、とうした問題意識のなかで今後さらにその輪を広げてゆく所存である。

2023 年度共同研究参加校：和歌山大学教育学部、和歌山大学教育学部附属中学校、和歌山大学教育学部附属小学校、和歌山県立田辺高等学校、和歌山県立箕島高等学校